

市指定文化財に指定

新宮町上山に安楽寺あり！

あんらくじ

3月26日、後世に守り伝えるべき大切な文化財として、**真言宗 大覚寺派 無量壽山 阿彌陀院 安楽寺本堂**（新宮町上山6198）が、市指定文化財（建造物）に指定されました。

この特集では安楽寺について紹介します。

問 文化・スポーツ振興課 28-6043

安楽寺は16世紀の後半、新宮町上山の現在地に創建されたと伝えられており、今回文化財に指定された本堂は、建築様式や葺き替え前の露盤宝珠の銘から嘉永7年（1854年）頃の再建と考えられています。

安楽寺本堂の魅力「板軒彫刻」

唐様（禅宗様）が多用された方三間の安楽寺本堂の最大の魅力は、雲龍を施した板軒をはじめとする彫刻物にあると言えるでしょう。板軒とは、軒下に通常用いられる化粧垂木ではなく、厚板を張った軒で彩色や彫刻が施されたものを指しますが、一概に板軒とは言っても、他では板面をそのまま生かした簡素なものや、雲文や波文を用いたものが確認されています。

安楽寺本堂はそうした文様に限らず、雲龍の浮き彫りが全面に施されています。特に龍頭が塊の材から断面をU字型にして立体的に掘り出された箇所は最大の見どころと言えるでしょう。この技法は丸彫りと呼ばれ、龍頭が板軒から突き出し、龍の目やひげには銅板が用いられています。堂内の折上格天井の中央にも雲龍の浮き彫りが張られています。



▲雲龍の彫刻が施された板軒



▲安楽寺本堂の全景

その他にも、一手先詰組とした組物や、唐獅子牡丹や岩山で埋め尽くされた琵琶板、鉦彫りを思わせる大型の木鼻など、建物の各部位ごとに多くの見どころを有しています。彫り振りや仕上げに粗さが見受けられる箇所もありますが、建物全体が彫刻の塊の様な印象を与えると同時に、手掛けた者の熱意を感じさせます。



▲大型の木鼻



▲二手先詰組の組物

貴重な文化財として

縁起や棟札などの詳細な記録類が残っていないことから、未だ不明な点も多く残されていますが、板軒彫刻を有した建造物自体が希少であり、また、安楽寺本堂が有する様な板軒彫刻は非常に珍しく、他には確認されていません。装飾性の高い幕末期の建造物として価値の高いものであり、今後、更なる研究の深化と評価の高まりが期待されています。

訪れてくれた人たちの交流を大切に、安楽寺の魅力を伝えたい



安楽寺住職 横山弘明さん

平成28年10月、和歌山県の高野山から参り、安楽寺の住職になりました。安楽寺は当初、住職不在の無住寺でしたが、檀家や地域の皆さまをはじめ、参拝者との交流を深めながら、寺としての務めを果たしています。

この度、市指定文化財に指定いただいたことが、地域活性化の一助となれば何よりうれしく思います。いま一度、安楽寺の魅力を再見つけ直し、広く皆さまに伝えていくことで、地域に根差した安楽寺にしていきます。新宮町上山に安楽寺あり！興味を持たれた方は、ぜひ足を運んでみてください。



▲山門の寺名は住職の筆による

木製の不動明王像は住職のお気に入り

